2023 年度前期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	総合科学部・総合科学科・1 年
------------	-----------------

(1) START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか
<p>人生で初めて海外へ行って、あらゆることが新しい発見の毎日だったり思いがけない共通点があったりしたことが生きる上での視野を広げてくれました。私は日本の地域を持続可能にするための街づくりを学ぼうと考えており、日本を俯瞰するために世界を知りたいと思っています。START プログラムを経て、国というものを感じました。日本で生きてると隣国は海を経ているからか、他国はよその世界をいう感覚が強かったのです。しかし、タイでゴールデントライアングルを目の当たりにしたり、アヘン戦争を内部から学んでみたりすると国交や貿易、支配関係などが見えてきて、他国はよその世界ではなく身近で強いかかわりを持った同じ世界であると感じました。国際社会で日本が成長し、国家から小さな町まで持続可能な社会を保つために必要な考え方が海外へ行ってみてわかりました。言語や文化の面で、英語は公用語になり、あるアーティストが世界中で有名であることなど、世界は思っているより狭くどんどん同化していている一方で、ナショナリズムをしっかり持つことの重要性をタイの学生から感じました。個人を尊重し違いを受け入れることが日本に足りない思考であり、これからの研究や学びに活かしたいと思いました。</p>
(2) プログラム内容についての全体的な感想

11 日間ずっと楽しかったです。簡単にはできない新鮮な体験を学校全面サポートで、無駄なく楽しみつくせました。普通に旅行するだけでは現地の同世代の学生たちと関わることはできないし、チェンライを楽しみつくしたといえるほどのフィールドワークの充実とそこにしっかり学びを絡めて現地の学生と一緒に感じたことを表現したり発表したりできたことは **START** プログラムならではだと思えます。タイという場所が面白いだけでなく **MFU** の生徒ありきの楽しさでしたし、タイの人たちの温かさや親切さ、フレンドリーさに感動しました。日本とはまた違う人のやさしさや町の活気がいいなと思いました。

(3) 今後 **START** プログラムに参加する後輩へのアドバイス

START プログラムに参加しようと思決断した気持ちと楽しむ心を忘れずに、恐れず自分を表現することがとても大事です。向こうの学生は間違えることは当たり前だと思っているし、彼らも英語が第一言語ではないから伝えたいけど難しいという感覚を知っています。タイの学生になんでそんなに英語が上手なのと聞いた時、みんな口をそろえて、文法とか難しい言葉じゃなくていいから理解しよう、伝えようとチャレンジし続けているだけだよと言っていました。初めての海外渡航の人や英語に自信のない人もいます。だからと言って壁を作るのではなく、コミュニケーションをとろうとすることが **START** プログラムを楽しむカギになると思います。

2023 年度前期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	総合科学部・国際共創学科・1年
------------	-----------------

<p>(1) START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか</p> <p>まず、異なる国や文化背景を持つ人と交流することは、自分の考え方を見直す大きなきっかけになると強く感じた。身の回りのちょっとしたこと、例えば、トイレの使い方、食事をする際のマナーなどでさえ、かなりの違いがあった。一番印象的だったのは、食事の始まり方である。日本では、数人で同じテーブルを囲んで食べる際、そのテーブルにいる人全員が揃ったら「いただきます」を言って食べ始めるという感覚があるが、タイでは「いただきます」という言葉もなく、また、ご飯の準備が整ったら各自で食べ始めるという文化であったため、とても違和感を覚えた。しかし同時に、この違いがとても興味深いなども思った。他にも、タイの学生と日本人の考え方について話す機会があった。その内容は、なぜ日本人は残業をするのかというものだった。自分自身、そのような疑問を抱いたことがなく、質問にうまく答えられなかったが、改めて自分の中にある日本的な当たり前を問い直された気がした。タイの人は、仕事が勤務時間内に終わらないのであれば、それを断ることも責任の一つであり、家族との時間を大切にすることは当たり前だと言っており、新たな価値観を得ることができた。今後も、多くの国、場祖を訪れ、多くの人と交流を持ちその都度人々と考え方を共有することで、自分の中にある当たり前を問い直すきっかけをたくさん持っていきたいと思った。</p> <p>また、今回の留学のテーマであった SDGs についても多くを学べた。主にフィールドワークを行ったことで、実際の目を見て、タイの中でどのように持続可能な社会が目指されてきたのかが分かりやすかった。座学だけでは学べないことを経験でき、とてもよかったと思う。加えて、そこで学んだことについてタイの学生とプレゼンテーションを行ったことで、自分の考えを深めることができた。短期留学前から SDGs には興味を持っていたが、このプログラムを通して、さらに SDGs について学びたいと思うようになった。特に、茶畑を訪問した際見た、目の前に広がった緑あふれる光景から、自然の中に身を置く心地よさや自然を守ることの重要性を感じた。この気持ちを忘れず、目で見ると実際に体験するという事を通して自然について学び、自分自身の意見を作り上げていきたいと思う。</p>
<p>(2) プログラム内容についての全体的な感想</p>

留学をすることの醍醐味は、海外の学生との交流を持つことだと思っているため、プログラムの期間中、ずっとタイの学生と行動を共にできたのはとても良かったと思う。移動時間中もそれぞれの文化について話をしたり、たわいのない話で盛り上がりたりすることができ、まだまだ時間が足りないと思うくらいに楽しく濃い時間を過ごすことができた。そして、文化や環境、国籍が違ったとしても結局のところ、同じ若い世代の大学生であるということはお互い変わらず、盛り上がる内容も、普段の会話もとても親近感の沸くものばかりで、外国の人だからと身構える必要もないのだなと思った。たくさんの MFU の学生に参加してもらえてよかったと思う。また、広大生側の人数が多くなかったというのも、タイの学生との時間を多く持てた理由かと思う。

文化的交流や、たわいのない話をする機会は多かったが、答えのない問いなど、難しい内容について議論をする場面は少し少なかったかなと感じた。10 日間という短い時間であったため、なかなかそういった時間を取ることは難しいかもしれないが、個人的には、今のタイ、日本の発展状況や、森林破壊、貧困、海洋汚染といった国際問題について、現地学生がどのような意見を持っているのかをもっと聞いてみたかったと思う。なので、ディベートの時間や、もっと本格的な講義を受けてみたい。

普段と異なる環境に一週間以上身を置き、新しい価値観に触れるという経験は、多国籍の友達ができるというだけでなく、自分の視野を広げるきっかけにもなるため、何か新しいことに挑戦したい人や、普段の大学生生活では味わえないことを経験したい人、自分の進みたい進路がわからない人など、多くの人に参加してもらいたいなと思った。特にタイにはたくさんの人に行ってみてほしいと強く感じた。

(3) 今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

何か現地の学生と話してみたい話のトピックと、それに対する自分の意見を用意しておく方が良いと思う。いざ話してみようと思っても、自分自身で整理が出来ていないとうまく伝えられないので、少しでも頭の中で自分の考えをまとめておくことをお勧めする。タイの常識やマナーを事前に学ぶこともかなり大切だと思う。私は、タイではトイレトペーパーを流すと詰まってしまうということを知らずに訪問してしまい、最初の数日間はトイレトペーパーを流してしまっていた。深いところまで学ぶ必要はないかもしれないが、YouTube や Instagram を活用して、普段の生活の中で必要そうなことはしっかりと学ぶべきだと思った。

また、お土産は多すぎるくらい持って行って損はないと強く感じた。特に、お菓子ではなく、メモ帳やお箸、ちょっとした小物入れなど、値段は高くなくても、何か手元に残せて、日本を思い出せるものをプレゼントしたいと感じたので、20 個ほどそういったものを準備しておく方が良いと思う。もっと実用的なもので言えば、ハンガーと洗濯ばさみは持っていくべきだと思う。洗濯物を自分で乾かさないといけない場合、ホテルにあるものだけでは数が足りなかった。

今後タイの START プログラム参加者が増えてほしいので、もっと過去の参加者からの声を集めて、それを動画にしてみてもどうかと思う。実際の映像で見ることで、写真からでは伝わらないタイの魅力を伝えられると思う。